

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

10月下旬、NPO信州地域フォーラムが下諏訪町「ひとづの麦」で企画した勉強会に参加する。建物は旧中山道沿いに配慮した宿場

の雰囲気を感じさせる外観。会のメンバーで諏訪地域を中心に発達障がい児者や家族を支援する民間非営利団体「シーズ」が、活動の目的の一つにしている「地域において、豊かで美りの多い社会を営む」ための

場として自宅を改装した建物。人が集って出合う、温かさが伝わってくる。

## 現場で活躍する人が情報発信する地域が、常に新しい考えに挑戦できると確信する

信大大学院の恩師である下田平先生を囲んで、改めて社会人大学院で学んだ意義と、修了してからのメンバーの社会での取り組みを確認する目的で進めら

れた。メンバーの修了してからの社会活動で大学を社会に開放して、現場で活躍する人が発信する大学院の目指す方向性が確実に成果を発揮していると改めて確信できる。大切なのは現場に出掛け、

意見交換も大きなテーマで、今回下諏訪町議会の林元夫議長・宮坂徹副議長・NPO諏訪圏ものづくり推進機構の井口直美専門アドバイザーと下諏訪町役場職員も午後5時からの会費制の勉強会に参加

る。将来を見越した諏訪地域の市町村合併がとん挫、町として生き残るためには、まず議会改革。町民と一緒に地域運営しなくてはとの想いが強く伝わってくる。特に議会活動のフットワークの良さが

独りよがりにならず、聞き取る力を高め、色々な考えに出会い、仲間をつくる必要性を学んだからこそ、今の活き活きした毎日が過ごせるのだと再確認する。

開催地の関係者との



（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森 上）

うらやましくなる。話をうかがうが、一番印象に残ったのが議会報の発行だ。議員が原稿を作成して発行するのだが、

まず議会から取り組みるところはこの意識の高さと、一回当たりの経費が驚く程安い金額。メンバー自身の市町村では、議会報に費やす金額はと気になっ

ザーからは、歩くのが仕事と万歩計を披露。歩く地域課題が見え、住む人の姿が解ると。地域の人材不足の課題、特に若者の叱られたことのない経験からの生じる課題の提起

は、これからの日本全体の課題なのだろうと感じた勉強会でもあった。